

(清水町) 清水ミライ自分ごと化会議 議事メモ

全体コーディネーター	伊藤 伸
日時	令和2年2月12日(水) 19時00分から21時30分まで
場所	清水町ハーモニープラザ(清水町本通1丁目1-2)
その他	グループコーディネーター 1班 伊藤 伸(構想日本) 2班 渡辺浩二(十勝の未来を考える自治体職員会:芽室町職) ナビゲーター 1班 香田裕一(十勝の未来を考える自治体職員会:幕別町職) 2班 藤谷満伸(同上:大樹町職) 参加者数 27名 欠席者数 24名 傍聴者数(町民) 1名、(町外) 3名、(報道) 0名 事務局 前田 真(企画課長)、川口二郎(企画課長補佐)、 田村幸紀(企画課政策企画係長)、中澤優人(企画課政策企画係主事補)

趣旨・概要

第4回目のテーマは「少子高齢化・情報発信」

- (1) これまでの3回は、アンケート結果で「まちの強み」をテーマに、1テーマを1回の開催で完結させてきたが、第4回からはアンケートで意見が多く出た「少子高齢化」と「情報発信」といった、「まちの課題」について議論を進めるため、3回継続して同一テーマで議論する。
- (2) 少子化対策では、子育て環境の充実策として、出産環境や子育て環境、子どもの遊び場の充実が挙げられる。また、高齢化への対策として、それらに対する行政の役割交通弱者への対策は十分か。路線バス等がない中、町民の足を確保する交通網を形成するために必要なことは何か。
- (3) 情報発信では、町民アンケートやこれまでのミライ会議においても共通して挙げられた内容であることから、現在の情報発信方法等の整理をした中で、今の時代にあった発信方法を検討した上で、個人・地域・行政それぞれの立場から何が必要かを考える。

全体会として前回会議の振り返りを行ったのち、ナビゲーターを交えて2つの分科会でグループ討議を行った。次回以降については同じ班、同じテーマで会議を実施するため各班において終了した。

自分ごと化会議の進め方

事： 今回が初参加の方もいらっしゃると思いますが、前回とは違う班形式で進めて行きたいと思えます。前回までの会議では、町民アンケート結果による清水町の強みについて協議していただきましたが、今回からの3回については、清水町のこれから10年を考えた中で、自分が抱えている清水町の不安や弱さについて協議して行きたいと思えます。具体的なテーマとしては、アンケートで回答が多かった「少子高齢化」の部分と、今まで清水町の強みを話していく中で何度も出てきていた「情報発信」としております。以上をテーマとして今後3回を予定している会議の中で、「自助」「共助」「公助」の3つの視点を意識した中で協議していただきたいと思えます。

(各班に分かれて議論開始)

各班において、班を変更としたことから改めて自己紹介を実施するのに併せて、テーマに関する今現在の意見を発表し、テーマを議論する切り口とした。

ワークショップ（協議）

第1班

ファシリテーター：伊藤 伸（構想日本）

ナビゲーター：香田 裕一（幕別町職員）

委員：15名

(コーディネーターより班形態の変更や、テーマに関する説明及び今後の進行について説明)

- ・自己紹介も兼ねてテーマについて感じていることを発表

コ：本別町出身、東京都在住、構想日本にて無作為抽出という手法と活用し、事業評価や計画策定等に携わっている。

ナ：幕別町出身、幕別町在住、幕別町役場農林課勤務。子育てや福祉に関係する課には行ったことがないため、皆さんに近い立場で幕別町の現状を踏まえて話していこうと考えている。

メ②：清水町出身、帯広三条高校在校、室蘭工業大学へ進学。自分が活用して助かっていると考えられる「医療費の無償化」について話していきたい。

メ③：芽室町出身、結婚を機に清水町に転入。町外の方々や清水町から出て行った子どもたちが普段の生活や就職を機に集まってくるような町になると良いと考えている。

メ④：上清水にて農業を営んでいる。独身。年齢的に中間層として今後意見を出して行きたい。清水町の現状としては、進学等で清水町から出ていった子どもたちが戻ってこれるような企業体質を始めとした雇用環境の改善が必要となっている。

メ⑤：昨年までは役場に勤めており、現在は外側から役場の仕事に関っている。少子化問題は避けては通れない問題であるが、その中で子育てについて大変興味がある。町内全ての

子どもたちひとりひとりに発達や育ち、環境に関係なく手厚く手を差し伸べられているのかが心配。そういった体制等を整え、子どもたちを育てることができれば清水町の財産になると考えている。

メ⑭：清水町在住。昔、公共交通機関で帯広まで行った経験がありとても苦勞した。自分も今後安全に車を運転できるか不安なため便利になればと思う。他の方々よりも比較的役場の情報を得ていると思うが、この会議で新たに知ることもある。町民が様々な情報を知った上で選択できるといい。

メ④：清水町在住。商売を営んでいる。すぐに人口を増やすことはできないが、これ以上減少せずに多くの子どもたちが育つような環境づくりが必要。結婚願望が少ない若者が多いように感じるため、少子化対策は今よりさらに必要性が増している。

メ⑦：関東圏出身。清水の高齢者はとても元気な高齢者が多い。高齢者自身も元気に生活することを心がけていると思う。それに対して手助けが必ず必要かどうか考えることも必要だと思う。医療費の無償化を含めた制度は充実しているが、周知不足と感じる。

メ①：帯広三条高校在校。子育て支援制度が充実している、子どもが欲しいと考える若者が減少していることを踏まえると、制度の充実だけが必要というわけではない。

メ⑫：清水町出身、清水町在住。昔の小学校が福祉施設として活用されている現状で少子高齢化を感じる。今の子どもたちは部活動や習い事で外出していることが多い傾向にあると思う。

メ⑩：帯広三条高校在校。将来の希望する職業と関係性があるため、このテーマに興味がある。子どもや高齢者に対する支援制度は充実している。少子化の一番の課題は、清水町やその周辺に産婦人科を持っている病院がないことであり、一番近い帯広への公共交通機関の充実が足りないこと。地域の課題として考えていければ良いと思う。

メ③：清水町にて商売を営んでいる。資料で少子高齢化対策の制度充実を実感した。

メ⑨：清水町出身、清水町在住。自宅から清水市街地までは距離がある。自分も親も今は車を運転しており不便はないが、今後のことを考えると経済面も考慮し、制度を活用することでメリットが多いと思う。

メ⑨：会議に参加することで町内のことに目を向けようと思っている。

メ⑪：清水町出身、清水町在住。子育て制度充実が清水町の強みだと思うが、公園遊具施設は不足している。この会議で学びながら改善に繋がればと思っている。

メ⑧：清水町出身、清水町在住。高齢者の立場として、車が乗れなくなった時のことを考えるが、現在のコミバスは不便。この場で皆さんと意見交換していきたい。

(事務局2名自己紹介)

(ホワイトボードを元にまとめ)

【少子化】

- ・ 共通認識として清水町に子育て支援制度は充実している。

- ①子ども（高校生まで）の医療費無償化
→全国的に見てもかなり進んでいる。
- ②出産祝金
→金額も大きく、該当者には制度の説明を実施している。
- ・ どういった町にしたいか
 - ①子どもが戻ってくる町
→雇用環境の整備や人口減少が課題
- ・ 全ての子どもたちに充実した支援が行き届いているか
 - ①清水町の子ども発達支援センターは全国的に見ても進んでいるのではないか。
- ・ 行政サービスの活用に課題
- ・ 子どもの遊んでいる姿が見えない
 - ①分母の少なさだけでなく、習い事等によって忙しくなっている。
 - ②公園の遊具施設が充実していないことにより外で遊びたくても遊べない。
- ・ 子どもを生みたい若者の減少
 - ①制度の充実だけでは不足している。
 - ②産婦人科が近辺にない。
- ・ 町内の保育施設受入状況
 - ①町内施設状況→御影地区：1、清水地区：3（R2年度から2）
 - ②現状として0歳～2歳の子どもの預かる数が増えている。
→両親共働き世帯の増加、R元年度から開始されている保育料無償化などが要因。

【高齢化】

- ・ 移動手段の確保
 - ①現在の制度では不便な部分がある。
→車に掛かる維持費と、都度タクシーを使うときの必要経費の比較
最先端技術の活用による進展
 - ②手助けしないことの重要度（清水町人口：9,370人）
→できる限り自分でできることはやることで健康的な長寿に繋がる。
清水町高齢化率 35%（全国平均 29%）。要介護認定率 20.4%（全国平均 18%）。
65歳以上単身世帯率 27.5%（全国平均 27.3%）、65歳以上夫婦世帯率 37.5%（全国平均 29.6%）→数字的には高齢者だけの世帯が多い。

【子育て】を中心に進める。

ナ：公園に子どもが少ないのは遊具がなく、老朽化が進んでいるとあったが、幕別町は1人あたりの公園面積も全国トップクラスで遊具の更新も行っているが、遊んでいる子

どもは少ないのが現状。要因としてスマホの普及によるゲーム等をする子どもの増加が考えられる。

コ：自分が小学生の頃は放課後に何をしていたイメージがあるか。

メ②：外で遊んでいる記憶はあまりなく習字を習っていた。友達と集まってポータブルのゲーム機で遊んでいた印象が強い。

メ①：公園等で遊んでいた。ゲームをする子どもが増えて、外で遊んでいる子どもは減っていると思う。

メ⑩：小学生の時は習い事が大半を占めていた。家庭学習期間ということもあり今は家にいるが、弟は部活動が終わった後ほぼ一日中ゲームをしている。自分の時との変化を感じる。

コ：子育て環境を考える中で、町として子どもたちの遊び方の変化を考慮した上で、公園の必要性を考えなければならない。実際に子育てをしている立場としてはどうか。

メ⑪：この時代、小学校高学年の頃にはゲーム機を持って友達と一緒にゲームをして遊んでいることはしょうがないと感じている。しかし、幼稚園から小学校低学年の子どもが外で遊ぶには親が同行する必要がある。実際に同行し、公園のベンチや遊具を見ると不安になる。母親同士で話していても安全に子どもが遊べる公園がないから家の中で遊ばせることが多い。

メ⑬：自分が公園等に行ったときに感じていたのは、公園の敷地内にトイレ無く不便に感じていた。

ナ：公園内にトイレが無い理由としては、バリアフリー法の関連性が出てきて誰でも使えるトイレを整備する必要があり、コストが掛かる。幕別町でのトイレに関する問い合わせに対しては、一度家に帰ってトイレをしてくださいと公式に回答している。

メ⑦：清水に来る前にいたところには小さな公園があり最初は遊具も沢山あったが、徐々に撤去されていった。理由としては万が一のことがあった時に責任問題になってしまうから。

メ⑭：学童に通っている小学生はゲームができないため屋内外で一生懸命遊んでいるが、小学生の身体にあった遊具が少ないと感じる。公園の遊具や、隣にある幼稚園の遊具も小学生が対象のものは少ない。施設は以前の児童館のため、学校の体育館で遊ぶようにはいかない。身体を思いっきり使って遊ぶ場所が少ないと思う。具体的には、幼稚園にあるジャングルジムは規格的に小さいため危険を感じている。小学生が遊ばなくなったこともあると思うが、場所が無いことも確か。

メ⑩：保育所が統合するが、空いた建物や土地がどうするのか。

傍：第二保育所跡は時期未定だが更地にすることが決まっている。第一保育所跡は用途が決まっていない。

メ⑩：学童の子どもたちが遊ぶスペースが無いのであれば、そういった空いた土地を使ってもいいのではないか。

メ③：そういったスペースを活用するのであれば、児童館でボール等を貸し出しする方法もある。

コ：子どもたちが外に出たいと思うような場所作りが必要。

メ⑤：子どもたちが親を含めて一緒に集まれるような場所は確かに無いように思う。

メ⑬：今の子どもたちは公園で遊ぶというよりは、老人福祉センター、公民館に集って遊んでいることの方が多いと思う。

コ：子どもたちの選択肢を用意してあげることの重要性が出てくる。

メ⑮：もちろん、環境が整っていくことは重要なことだと思うが、安全性も含めると親の負担になる部分も増える。親の中には忙しい年代の方々も多く、子どもの遊ぶ時間につき合うだけの余裕が無いと虐待に繋がるケースもある。子育てを考えるのであれば、子どもだけを中心に考えても効果は薄く、親へのサポートなど様々な要因があつて初めて効果が出てくる。

(休憩)

(前半まとめ)

選 択 肢	課 題
①外で遊ぶ	①町内にある公園の遊具等の老朽化が進み活用できない →保育所の統一による空き地を活用することでの解決
②ゲーム	②スマホの普及やゲーム機の所有率増加に伴う新たな選択肢

※選択肢を踏まえ環境を整備する重要性だけでなく、親の心身サポート体制の構築も必要不可欠。

メ⑮：町として子どもへの支援はまだ不足している。清水町で気になる子どもが多いことは事実だがこれが問題ではない。子どもたちに継続的な支援が行われず、子どもたちがちゃんとした生活を送れずにいることが問題。子どもたちが大人になり就職し、仕事を続ける経験により、自分に自信を持って生活する手助けを実施できれば、その子どもたちが清水町の財産になる。そのためにも保護者、行政、教育機関が連携しひとりひとりと向き合った支援をしなければならない。町内の不登校率や引きこもり件数も正確な数値の把握には至っていないが、他と比べて多いと想像している。悩み、苦しんでいる子どもと同じだけ苦しんでいる親もいる。そういった方々へ対し、生活保護による解決ではなく、子どもと親の両方が安心できる環境づくりが清水町の課題。

コ：「きずな園」の未就学児から中学校卒業まで登録者は68名と聞いている。同じ人口規模の市町村と比較しても多いと感じる。しかし、ここまで顕在化していることは少なく、清水町の手厚い支援の現われだと感じる。

メ⑩：清水町は細かく連絡してくれることもあり、親も検診等に行きやすい状況が作られている。援助の情報を得る場も多い。

- コ：親世代の心身の負担について、サポート体制は整っていると感じるか。
- メ⑪：以前住んでいた地域と比較しても清水町の金銭的な補助が多く子育てしやすいと感じている。しかし、親の忙しさや仕事は行政が関与すべきでないことも多いため、ケアが難しい。個人としては子育てをするうえで不便なことは無い。
- メ⑫：雇用面で考えると働く人が不足している。平日にパートで働く職員が週末になるといなくなる。事業所からは前まではアルバイトやパートがいたが、今はなくなったという話が多い。町内に職が無いわけではなく、求職者と事業所との間でくい違いが起きている印象を受ける。
- コ：都市部では、どの家庭が子育てを負担に感じているか把握するのは困難。清水町だとある程度の特定が可能となっていると思う。これは地域がそういった環境になっているからだと感じる。
- メ⑬：親も子どもも知っているので、他の家庭の情報を得て親同士で助け合っていることは間違いない。
- コ：元々は芽室町にいた人としても同じ年代の親は把握できるものか。
- メ⑬：最初は全く知らなかったが、検診等を回数重ねることで大体は把握できる。
- メ⑦：自分はそのままで把握するほどではないが、面識がある人は増えている。しかし、ここまで地域の距離感が近いことは初めてで恐ろしく感じることもある。
- コ：清水町の今後の目標は、「①子どもを増やすために制度を充実させた方がいい」または「②今いる住民のために制度を充実させたほうがいい」のどちらか。
- メ⑤：②今いる人のために充実させたい。
- メ③：②今いる人のために充実させることで結果的に子どもが増えるのかと思う。
- メ④：②一時的に人口を増やすのであれば、御影地区に宅地醸成をして若い世代を呼び込むことで解決できるが、清水市街には効果が薄い。また清水町の働く場の減少を考えると、子育て支援制度の充実だけではなく、雇用に関する制度の充実が重要になってくる。
- メ②：①今いる人よりは新しく子どもを増やす方向が良いと思う。
- メ⑩：②将来、職に就いてから清水町に戻ってくることに抵抗は無い。これは清水町で育ち、話に出ていた制度等が整っていることを知っていることが大きい。知らない人は清水町の外から見たイメージしかないため、この町に住むことを素直に受け入れることは難しいと思う。
- メ①：②会社員として働くことを考えると、給料水準等が都市部の方が優れているため、清水町に戻ってくる可能性は少ないが、結婚のことを考えると、清水町のような制度の整っている環境に住み通勤することを考える。しかし、清水町に住み一番近い都市部は帯広市になるが、そこには自分の就きたい職業はない。
- ナ：②子どもの数を増やしたいのであれば、子どもに掛かる経費の全額を市町村から出す制度にすることで子どもを生みたいと思う人が増える可能性はあるが、それが良い町

づくりに繋がるとは限らない。また人口を増やす方法としては他の地域の人を呼び込むことが最も簡単な方法ではあるが、その中には外国人も含まれるわけであって、外国人が町内で増えることでさらに別の問題が浮上してくることは容易に考えられる。

コ：担当課としては「町内の子どもを増やしたいから制度を充実させている」のか「少なくとも生みたいと持っている人達のために制度を充実しているのか」

傍：今ある制度で子どもが増えるとは思っていないが、今清水町に住んでいる人達で、2人目や3人目を考えられるような環境づくりを進めることで、子どもの数が増えることに繋がって行くと考えている。

メ⑩：②制度だけの充実では子どもを生みたいと思う人の増加には繋がらない。芽室町の産婦人科が無くなり、帯広市にしかない現状では出産に不安しかない。帯広市に行くことは難しいけれど、清水町で出産ができるような環境・制度は無い。助産師等が清水町に来てくれるようなものがあれば、今ある制度と組み合わせると効果が出ると思う。

コ：統計学的に出ている内容として、子育て支援政策の充実と子どもに出生数が増えることには相関関係が出ていない。生物学的には、「生む」「育てる」「自己実現」の三つの要素の足し算は常に一定になるとされている。近年言われているのは「子育て環境」と「女性に自己実現」に重点を置いていることから、生物学的には「生む」の要素が小さくなることになる。だから悪いといたいわけではなく、むしろこれが必要となる。清水町として「子どもを増やします」というのではなく、「結果として子どもが増えるような政策」を実施することが次の総合計画には必要となってくるのかと思う。

傍：子どもを増やすことを目標として掲げるのではなく、話の中にあつた3つの要素のトータルとして考えるほうがいいのかと思う。その中でも「自己実現」の面では子育てをする母親の皆さんは子育てに拘束され、仕事をできない期間等もあるから重要視したほうがいいのかもかもしれない。

(改善提案シート記入)

事：行政的な立場で言えば子どもを生んで欲しいとは言えない。何度か出てきていたが、子どもを生むことが万人の幸せではなく、生まなくても幸せに生活している方もいる。しかし、これからを担う世代が必要だということも確かであるため、そのためにも子どもや親の生活をサポートすることが必要だと考えている。

事：子どもを生みたいと思っている人が生むものであって、決して強制することではない。近年の数字として、清水町の出生数はH29・H30年度共に50人、今年度も若干の違いはあるが同じような数字になると思う。この数字は決して多くないことも鑑み、育てる方向の政策にお金を使うことで、子育てしやすい環境を求めて子育て世帯が清水町に移住して子どもが増えるという形がベストだと思う。

コ : 清水町の子育て環境は充実していることをきいて小学生位の子どもがいる世帯が増えるといい。

(ここまでのまとめ)

【子育て中心】

- ・屋外の遊び場において遊びやすい環境がない。
 - ・環境があっても親の心身負担のケア問題
- 地域によるサポート環境（地域間サポート、行政によるきめ細やかな連絡など）
- ・子どもを増やすためなのか、今の住民のための制度充実なのか
- 今後は出生数等の目標でなく、子育てしやすい町として発信していくのか。

メ④ : 若い世代が働く場を求めて来てくれないことには充実している制度活用する段階に繋がらない。清水町を離れていったとしても、数年民間企業に勤めて経験を積んだ後に、清水町で働く親や町民の人達を見て戻ってきたいと考える人が少ない。

コ : 先ほど話が出てきていたが、企業と求職者の間のミスマッチが起こっている。働く場所はあるけれども、そこに行きたい人がいないといった形かと思う。

メ⑫ : 求人に関する話であれば、清水町には知り合いがいるから働きたくないという意見もあり、隣町に就職するケースが見られる。また求人の内容として、高齢化を原因として技術が必要なものも多くなってきている中で、若者がその職に就くのは大変。

メ⑮ : 専門的な話になってしまい、大変申し訳ないと思っている。清水町で生きづらそうにしている人がいることは決して他人事ではなく、私も含めてさらに理解を深めなければならないという思いから話をさせていただきました。今後の生活で皆さんにも理解を深めるきっかけになれば良いと思う。

コ : 清水町だけでなく、就学後への切れ目のないケアが全国で課題になっていると思います。

メ③ : 働き口が無いという話があったが、清水町として企業誘致は進めていかないのか。また、噂話程度にはなるが進出しようとしている企業の話は蹴ったという話もある。

事 : 10~20年前には企業誘致にも力を入れていたという経過はある。しかし、現在の政策の方向性として新たな企業を誘致し商品開発をきっかけとした人口増加（社会増減）よりも出生や死亡などによる人口増加（自然増減）で進めていることから、企業誘致への力の入れ具合は以前よりも弱い。先ほどの企業の誘致を蹴ったという話は把握していない。

ナ : 清水町の制度の充実度には改めて感心した。自分も役場への就職を機に幕別町へ帰ってきたが、それが無ければ帰ってきていないと思う。これからは若者が戻ってくる方法を考えつつ、子育て環境の整備になっていくと思うが、これが難しい問題だと同じ役場職員として思うところ です。

第2班

コーディネーター：渡辺浩二（芽室町役場）

ナビゲーター：藤谷満伸（大樹町役場）

委員：12人

コ：町の強みとして外に発信したらよいと思うこと、町に住む者としてどんな情報が欲しいか又は欲しかったか等を自己紹介と共に話して欲しい。

メ①：高校生はインスタ・ツイッターなどから情報収集しているので、町からの情報発信ツールにもっと利用してほしい。

メ②：町の課題を考えたいと思い参加している。町の広報紙等は内容が充実していると感じているが、他の先進的と言われている自治体の事例と比較することで課題が見つかるかもしれないと思っている。町の施設を無料開放し、町民が楽しく集うイベントを企画し発信すべき。街のコンパクト化を進める必要性を感じているが、町民の多様な生活環境や交通手段に対応が重要だと思う。

メ⑥：町は広報、ホームページ、SNSと多様な手段で発信している。発信するからには最新情報とリアルタイムであることが重要。思いを相手に伝えることはある程度一方通行で良いと思うが、受信する側の要望やニーズを捉えた発信になることも望んでいる。

メ⑤：転勤族は企業の中に入ると町の情報に疎くなる。町への思いを共有したくて参加している。自分はスマホやタブレットから情報を入手していない。町の情報は紙媒体が必要だと思う。高齢者は壁に貼って見ている。外部への情報発信のツールとしてコンビニや商店のレシートにQRコードで町の情報を発信するのもおもしろい。また、人手不足といいながらも、求人のバランスが取れていないと感じている。求人情報をしっかりと発信してほしい。高齢者への取組としては、個別に職業を紹介するのではなく、年齢や対象別一覧を提供し、町民が自ら選択ができ、健康寿命を考えられるような体制を構築すべき。

メ⑩：昨年3月から91歳の町内で一人暮らしする母と夫婦で同居。町の情報は以前住んでいた町より充実していて、高齢者に優しい町だと感じている。情報は自分から求めて探せば良いのだが、なかなか難しいので定期的に高齢者の健康に関する情報を紙媒体で流して欲しい。外への発信は、訪れて見たいと思ってもらえるために、積極的にテレビやラジオを活用したら良いと思っている。まずは、住んでいる人が感じていることを話し合い、考えることが重要だと思うので、このような会には積極的に参加したい。

メ③：両親の介護で土日の開催には参加できなかった。研修会以来今回がはじめての参加なので楽しみ。東京都の知人にゆり根を送ったら、どのように食べたらよいかと喜ばれなかったが、長いもやアスパラをそのまま送ったらすごく喜ばれた。欲しいものは人それぞれ。自分自身も一日だけの食のイベントであるアスパラ祭りの情報より、アスパラはいつからいつまで売っていて、買うことができるのかという情報が欲しかった。また、来年度定年退職なので現在の教員住宅から御影の借家に入りたいと考え町のホームページの借家情報を閲覧したが、1年前に更新したまま放置されていた。情報も食も旬が大切。新鮮でな

いと価値はない。

- メ④：町内農業生産法人を営む、清水町一筋 6 1 年。町は広報紙などで様々な情報を出しているが隅々まで見ることができない。手軽に身近な情報がわかる別冊子を作るのが良いと思う。町ではアスパラ祭りや肉井祭りなど様々なイベントを開催しているが、参加者のうち町民は何割参加しているのかと考えるときがある。町民のいろんな世代・年代が来てくれるイベントを開催すべき。
- メ⑩：愛知県出身、清水町 12 年目。清水町に来たばかりの頃、町のホームページを見てとてもわかりにくかったのを覚えている。先日行われた「しゃっこい祭り（商工会主催）」のイベント情報がホームページの表面に掲載がなく詳細がわからなかった。基本的なイベント情報はわかりやすく掲示して欲しい。
- メ⑫：芽室町から美蔓に入り酪農 2 5 年。その後御影に移り 2 5 年経過。御影の A コープ店舗が土曜日閉店するのが困っていると地域で聞く。コンビニもあるしバスも運行しているけど高齢者には不便だという。
- メ⑧：清水町生まれ、52 年前に東京から脱サラして戻ってきた。先日防災無線が全戸に配布され、12 時に第九のチャイムだけが流れるのを見て思いついた。一週間のうち曜日によって農業・酪農・雇用など情報を区分けして放送したら良いと。また、情報は町民がまちのことを知ることからはじめ、段階を経て外に向いていくべき。
- メ⑨：御影在住、小学 1・5 年の子がいる。ツイッターやインスタグラムをよく見る。清水市街の商店のページをフォローしていることで清水の情報を知ることができている。町のイベント情報は清水と御影の壁をなくし発信してほしい。子どもたちも身近に感じられるようチラシの配布に学校を利用してほしい。
- メ⑦：会社を営んでいるが今でもよそ者感は取れない、御影在住 50 年。小さな商店や企業は情報発信ができていないので、町内にはまだまだ知らない情報が多い気がする。役場では多量の情報を発信しているが、まずは農村部も含めていち早く発信することと、光回線などの受信体制を整えることが大切。
- コ：情報発信に対する思いが多いことがわかった。大きく分けて 2 つに分かれる。ひとつめが、町内で自分たちにとって必要な情報には何があれば良いか。役場が出している情報と自分たちが欲しい情報はマッチしているか。もうひとつは、町外へどのように魅力を発信したらよいか。まずは皆さんの生活に関わる情報はどんなものが必要かを考えていきたい。後半から次回に向けては、町外への魅力発信について考えていきたい。まず、記録の政策企画係長は前任が広報広聴係なので、情報発信への思いを聞かせて欲しい。
- 事：町からの情報は広報紙やフェイスブック等と、ホームページの大きくふたつに分かれる。広報紙は若者から年配者まで、あらゆる世代の人が今どんな情報が必要なのかを考え、さらに、読んだ人に何かを感じてもらい行動に移してもらえようような編集をしてきたつもり。逆にホームページは、町民が情報を取りに来たときに容易に情報を取得できるような仕組みを構築しているもの。しかし、収納しているが最新ではないところや欲しい情報に辿り

着きにくいところは課題だと認識している。町の情報はこちらから発信するものと受身のものの両方が必要だと思っている。

ナ：自治体のホームページはどの市町村も変わらなくてわかりにくいかもしれない。たくさんの情報量をいかように見せるのも役場担当者次第。広報紙もターゲットを全ての世代に向けたのは難しい。身近でタイムリーな情報をまとめた冊子を出版するのは必要なことだと思っている。

メ②：先進事例が知りたいと言ったのは、防災無線を活用して独自の放送をしていたり、メールで定期配信をしているような自治体があれば知りたいと思ったから。

ナ：防災無線ではどのような放送をしているのか。

事：1月までは保健・子育て・教育情報など様々な内容の放送をしていたが、デジタル化に切り替えた1月末からは12時の第九のチャイムのみ。これからは防災に関する内容を月に1度程度放送する予定でいると聞いている。

メ⑥：防災無線は一方向的な情報のため、必要がない人は電源を切ってしまう。

メ⑧：曜日毎に放送する内容を決め、それをお知らせさえしておけば、必要な人だけ聞き、必要ない人はそのときだけ音量を下げておけることだってできる。

メ⑥：防災無線で不要な放送をするから電源を切られる。防災に特化した放送だけ流しておけば電源は切られず有事の際に役立つ手段となりうる。広報紙を町内会に対し一斉に送り、班を通じて配るのは楽な手法だが、どの人にどんな情報を送るという選択肢はないということになる。工夫次第で対象者に必要な情報をダイレクトに送れるようになる。ホームページは目的が明確でも情報の入口がわからないことが多い。わかりやすい見出しや検索バーがあると良い。できればワンクリックで完結してほしい。

メ②：防災無線の緊急放送は自動的に音量が上がる仕組みになっている。先ほどの番組表方式の放送で必要がない人は音量を下げるのは良い方法だと思う。

メ⑧：我々の世代でインターネットから町のホームページを開ける人はどれくらいいるか。現時点では広報紙は重要だと考える。文字を大きくするなどの対応は必要。

メ③：無線の良し悪しは使う人による。高齢の母は広報紙を見ないが、スーパーのチラシは見る。情報は、無線でもチラシでも広報紙でも何でもあった方が良く、受け取る側が取捨選択するものだと思う。必要な情報ツールで一方通行ではない情報の行き来が生まれる。

コ：外へ魅力を発信したら町はどうなるのか。どんな強みを発信したら良いだろうか。

メ①：祖父母のいる新得町に小さい頃からよく出掛けるが、清水町は人が多く、祭りの規模も大きい。駅前を多く開催するので、たくさんの人を呼べるPRができれば良い。

メ⑩：私も町内商店のフェイスブックをフォローし、面白い情報などを得ている。町のフェイスブックは顔が出すぎ。顔が判別できない配慮と撮影が必要だと思う。フェイスブックやツイッターはフォローすると出身が判別されてしまうので敬遠してしまうし、伸び悩む原因だとも思う。

メ⑪：商店街の空き店舗活用やテレワーク、古民家活用などがシャッター街の活性化に繋がる。

家族で新規就農してくれる方々には特典をつけるなどの政策を打ち出し、清水町で生活を始める魅力を発信していくと良いと思う。

コ：民間は副業も可能になってきているし、都会の企業はテレワークなど実施しているので、時代を捉えて活用してもらえよう情報発信することは大事。

メ⑤：新規就農を呼び込むことを、上士幌町ができて清水町にはなぜできないのか。そこが整理できれば改善策はわかるのだが。

コ：皆さんの話の中からキーワードは3つ発見できた。1農業、2イベント、3商店街。これらには魅力と課題の両方があるので、それらをどのように情報発信したらいいか。

メ⑦：清水町の農地は有効活用されており、拡大する人と離農する人のバランスが取れているので新規就農に限っては場所がない・資金がかかりすぎるといった課題もある。

コ：後の議論でも出てきそうな新規就農という新たなキーワードが出てきた。アンケートにも出ていた「良いものがあるのに発信力が弱い」といった部分について議論を進めたい。食や農業を含む観光振興をPRしていく良い方法は何かないだろうか。

メ②：食と農業がまちの強みであるので、観光客を呼び込むには子どもが無料で遊べる施設を前面にPRして道の駅で物販するのが良い。しかも他の自治体では行っていないことを。

メ③：授業で生徒たちに、清水四景プラス1を知っているかと尋ねたところ、ほとんどの生徒がわからなかった。自分たちの町のことを子どもたちが知らない中で、景勝地として推し進めるのは難しくないだろうか。

コ：外に情報発信する前に、自分たちの町のことをどのくらいの人知っているのかな？と考えることから始めるべきか。

メ⑧：十勝清水駅を降りて駅前を歩く気持ちにはならない。車社会なので店先に駐車場がなければ来客も期待できない。これは行政の責任でもあるので町の出資を多くして、いくつかの町内会を潰し大型ショッピングセンターをつくと良い。観光に銘を打つことにも繋がる。商売人はその建物の上層のマンションに住めば良い。観光は行政主導で行うべき。

メ⑦：新規就農と関連するが、観光と聞いて何をイメージするかを考えたとき、現地ではどのような生活で、どのような産業が生まれ、どのような営みを送っているかが見たいと思うものかもしれない。そう考えると、景観ばかりでなく現在の農業を見せるもの観光になると思う。捉え方が変われば取組も広がる。

コ：清水の強みである食と農業が、清水らしい観光のヒントに繋がるということがわかってきた。

メ⑩：情報自体は存在しているが、それが必要な人に伝わっていないということでミスマッチを起こしているだけ。欲しい情報媒体も個人差があることがわかった。新聞・広報・無線・冊子、ラジオなどがあり、インターネットを利用した動画配信やメール配信を求められてくるだろう。結局はどれかひとつが良いというわけではなく、これからはすべてを網羅していけばよいということだと思う。行政に全てを実施して欲しいというのであれば、文字を書くのが得意な人、動画を配信するのが得意な人などそれぞれの分野で長けた人たち・

頑張っている人たちに情報を満遍なく周知し、それぞれのペースで更新して行くサイクルを作ることができたならどんな情報も対応できる。そういう方向に、お金や人や知恵を使っていけたら良い。知りたいという欲求が新たなメディアを取り入れるきっかけにもなるので、情報のきめ細やかさと世代間の交流に繋がると感じている。

コ：次回の議論は2点。ひとつめは、町の中でどのように情報が行き交ったらよいかという点。これは自分たちの生活に関わることなのでわかりやすいが、もうひとつは町外向けの情報発信で、外に発信したら町はどう変わるのかという点について議論を深めていきたい。皆さんの意見にも出たように、これからつくる魅力も必要だが、これまである魅力や強みをどのように見せていくかが、真の清水らしさの発信に繋がると感じている。

【次回に向けて用意して欲しい資料】

- ・こんな情報を発信したから町がこんな感じで変わった、などの他自治体の先進事例。
- ・本町ホームページ閲覧の件数を他町と比較。(清水町と芽室町、大樹町)